

# コーチングのスキルと活用Ⅳ

～円滑な保護者対応に生かす～

別府大学

教授 佐藤 敬子



独立行政法人教職員支援機構

# 目次

## 1. 保護者を知る

- (1) 保護者の背景を知る
- (2) ミラー効果とペーシング
- (3) 7:3で「きく」

## 2. 日常的に良好な関係を築く

- (1) 教師と保護者は対等なパートナー
- (2) “一緒に”のスタンスで勇気づける
- (3) コンプリメントを心がける
- (4) 心理的事実の受容と客観的事実の吟味

## 3. コミュニケーションの基本

# 1. 保護者を知る

---

# 1. 保護者を知る

## (1) 保護者の背景を知る

### 保護者をめぐる社会的背景

- ① 少子化・核家族化
- ② 保護者の高学歴化
- ③ 価値観の多様化
- ④ 保護者の消費者意識
- ⑤ ストレス社会
- ⑥ 教師(公務員)の資質を疑問視する風潮
- ⑦ 社会全体の「教育観」

# 1. 保護者を知る

## (1) 保護者の背景を知る

### 保護者自身の背景

- ① 身近に相談する相手がいない
- ② 経済的な悩みを抱えている
- ③ 家族の子育て参加、協力が得られない
- ④ 精神的な悩みを抱えている
- ⑤ 身体的な悩みを抱えている
- ⑥ 家族や親戚の問題を抱えている

# 1. 保護者を知る

## (2) ミラー効果とペーシング

### ①ミラー効果

こちらが相手に苦手意識を持つと、同じように相手はこちらに苦手意識を持つ

「わかりたい」という姿勢は相手に「わかって欲しい」という姿勢をもたらす→（鏡のように）

### ②ペーシング

ことばや雰囲気、ペースを相手に合わせていくことで、相手は自分に近いと感じて安心する。信頼関係によって心を開き相手の存在・言葉を受け入れやすくなる。

# 1. 保護者を知る

(3) 7:3で「きく」

相手が話す割合:こちらが話す割合 = 7:3

※コーチングのスキルと活用 I, II 参照

①わかろうとして聴く

②興味を持って聴く(もっと知りたい)

③アドバイスせず、質問して相手の物語の多様性を認めながら聴く

## 2. 日常的に良好な関係を築く

---



## 2. 日常的に良好な関係を築く

### (1) 教師と保護者は対等なパートナー

①教師と保護者は立場、仕事、年齢、経験は違っても  
「子どもの健やかな成長」をGoal(共通の目標)とした  
対等なパートナーであると意識する

②真摯に共通のGoalを見出す

③常にフラットな関係性を心がける

※同等ということではない

## 2. 日常的に良好な関係を築く

### (2) “一緒に”のスタンスで勇気づける

#### ① 保護者自身の悩みにも配慮する

- ・ 自身の育てられ方と比較している
- ・ 社会的に孤立をしている
- ・ 自己解決能力、自己コントロール力が低い
- ・ 子育て以外の課題がある

× 「お母さん、頑張ってくださいね」

○ 「お母さん、一緒に頑張りましょう！」

## 2. 日常的に良好な関係を築く

### (3) コンプリメントを心がける

いつもコンプリメント（ねぎらい）のひと言を

「お仕事お疲れ様です。今日は夜勤明けではないですか？」

「お忙しい中、時間をつくっていただき本当にありがとうございます」

「いつも丁寧なお返事をありがとうございます。とてもうれしいです」

「毎日、早起きされてお弁当を作られているのですね。お子さんがいつも美味しそうに食べていますよ」

## 2. 日常的に良好な関係を築く

(4) 心理的事実の受容と客観的事実の吟味

「先生、うちの子の財布が盗まれたんです」

× 「ほんとうですか？勘違いではないんですか？」

「わが子の財布が盗まれた」と感じている

→ **心理的には事実**

まずは、**心理的な事実を受容する**

## 2. 日常的に良好な関係を築く

### (4) 心理的事実の受容と客観的事実の吟味

「先生、うちの子の財布が盗まれたんです」

○「お母さん、それは心配ですね。お財布がないのですね。〇〇君、困ったでしょう…」

盗まれたのか、置き忘れたのか、落としたのか、カバンに入っていたのか…

→客観的事実を吟味する

丁寧に「きく」

### 3. コミュニケーションの基本

---

## 3. コミュニケーションの基本

### (1) 話し方

- ①適切な言葉遣い
- ②あいづち、うなずき、表情、態度などの非言語的コミュニケーションを大切にする
- ③姿勢や目線を意識する

### (2) スタンス

- ①対等な関係であることを意識する
- ②日頃からの良好な人間関係を築く努力をする
- ③トラブルには冷静で誠実な対応をする

## バイステックの7原則を意識する

アメリカの社会福祉学者バイステック（バイスティックとも）氏が定義した「個別援助技術」

- ① 個別化（保護者を個人としてとらえる）
- ② 意図的な感情表現（保護者の感情表現を大切にする）
- ③ 統制された情緒的関与（教師は自分の感情を自覚して調整する）
- ④ 受容（保護者をありのままに受けとめ批判をしない）
- ⑤ 非審判的態度（保護者を一方的に非難しない）
- ⑥ 保護者の自己決定（保護者の意思に基づく自己決定を促して尊重する）
- ⑦ 秘密保持（秘密を保持して信頼感を醸成する）



# 事例

---

「携帯電話の所持をうちの子だけ許可してください」

これまでのスキルを応用して対応を考えましょう

# コーチングのスキルと活用Ⅳ

～円滑な保護者対応に生かす～

別府大学

教授 佐藤 敬子



独立行政法人教職員支援機構